

第16回 附設高校同窓会 就職セミナー 報告

2012年1月28日土曜日、東京（新橋）にて行われた就職セミナー、34名の学生諸君らと熱い議論を交わすことが出来、学生諸君にとって刺激的な1日となったのではと感じています。

ご参加して頂いた社会人の方々、内定者の学生諸君、また今回のセミナーのプログラムを一から考え、実行してくれた事務局有志の面々には、同窓会を代表して心よりお礼申し上げます。

セミナーの詳細レポートについては、事務局の一人として裏方対応を完璧にやってくれた55回生で大手新聞社に内定の江口君に以下レポート記事をお願いしましたので、ぜひご一読ください。

東京支部 副支部長 26回生 牛嶋 啓二 拝

1月28日（土）に新橋にて2012年附設就職セミナーが開催されました。

今回は事務局を代表しまして、55回生の江口がセミナーのレポートをさせていただきます。

報告に先立ちまして、まずお忙しい中、学生の為にお集まりいただいた社会人の皆さまに御礼を申し上げます。今回のプログラムの中身は皆様にご負担をお願いするものでしたが、就職活動を前にした学生たちにとって大変良い機会になったかと存じます。是非、今後とも学生の就職活動と本セミナーにご助力を賜れば幸いです。

積極的に参加してもらった学生諸兄にも感謝いたします。OB・OG一同、就職活動の成功をお祈りしております。勿論、お祈りするばかりではありません。今後も、附設ネットワークを駆使してご自身の納得のいく進路に足を踏み出していただければと存じます。ご相談などあれば [facebookの附設同窓会交流グループ](#)

(<http://www.facebook.com/groups/kurumefusetsu/>) をご活用ください。多くの先輩方から助言や助けを得ることができることかと思えます。

今回で16回を迎えた本セミナーですが、開催に先立って、牛嶋東京副支部長の呼びかけの下、6名の有志からなる事務局が結成されました。事務局では、セミナーを学生諸兄の就職活動にとって有意義な、そして「附設らしい」場とすべく、どのようなプログラムが良いのか連日連夜試行錯誤が重ねられました。事務局メンバーで広告代理店に内定した同じく55回生 多摩美大の五十嵐君が、先輩から今回のセミナーのキャッチフレーズを仰せつかりその結果、「今の就

活を先輩たちと考えよう！～学生の悩みはいつも同じ～」というテーマを掲げ、セミナーを単なる上から目線の講義やOB訪問会として終わらせない、お互いに本音や考えをぶつけあえる場所を意識したプログラムと成りました。

セミナーの出席者数は、事務局から参加をお願いした社会人16名、内定者9名、学生34名、および同窓会関係役員7名の計66名。社会人の皆さまは金融、メーカー、商社、メディア、官公庁等と業界を越えてご参加いただき、中でも人事部門勤務あるいはそのご経験のある先輩方は7名以上にのぼりました。これだけの皆さまにお集まりいただけるのも附設ネットワークの力強さであるかと思えます。また、学生の中には就職活動にはまだ時間のある2年生の姿も多く見られました。就職活動に対する危機感の高まりは附設出身者といえ変わりはないようです。また、昨年に引き続き、附設OBのご子息・ご息女にもご参加いただいております、今回は10名に上りました。今後もこの就職セミナーが卒業生のみならず、ご家族まで含めた幅広いネットワークとなり、お互いにとって新たな刺激を得られるような場になることを期待してやみません。

さて、セミナー第一部は社会人先輩からのスピーチで始まりました。世代と業界を超えて、社会の第一線で活躍されている4名の先輩方からメッセージをいただきました。就職活動をはじめにあたっての激励はもとより、社会で必要とされている資質や人材についてお話いただきました。ご自身の就活経験、グローバルな競争の現状や、社会人になるにあたっての責任、人事部の視点など、諸先輩方のお話いただいたテーマはいずれも学生にとって重要である一方でなかなか実感できないことでもあり、皆熱心に耳を傾けていました。

続いて学生諸兄に自己紹介をお願いしました。今回は「一分間で、あなたの個性（キャラクターや強みなど）を表現してください」というテーマを事前に伝えました。実際の就職活動の場では、「自身の強みを表現してください」という質問にテンプレート化した解答しか返ってこないなどということもあるようです。本セミナーでは、自分の個性とは何か、ということについてあらかじめ考えてもらったうえで、セミナー参加者全員の前で一人一人披露してもらいました。1分間という厳しい制限時間の中で、学生の皆さんはそれぞれしっかりと自分の言葉で自分を語っていたかと思えます。同時に、その難しさも実感できたのではないのでしょうか。

また、プログラム途中で長谷川同窓会会長や渡辺東京支部顧問の学生への応援メッセージも頂戴しました。自己紹介を前にした学生の皆さんも、長谷川会長のご挨拶で緊張をほぐして頂きながら、また渡辺顧問のご自身の経験をもとにされた激励の言葉に、自身の足で社会に踏み出すことの重みを噛みしめたことと思えます。

そして、セミナーはセッションパートへと続きます。

今回のセッションは社会人・内定者のペア2名と学生が2名の4名のグループを基本に10数グループを作り、グループ内で学生に「自分のやりたいことに」について自由にプレゼンをしてもらいます。このプレゼンをグループ内で議論し、フィードバックするというのを、メンバーを入れ替えて3回行いました。

また、学生にはあらかじめセッションシートを配布しています。ある学生がプレゼンしている間は、他の学生メンバーがプレゼンや議論の内容をこのシートに記入します。学生はこのセッションを終える段階で、3回、同じテーマでプレゼンと議論を行ったことになり、手元には同じグループのメンバーがメモを記したセッションノートが残ることになります。

セッションの開始に際して、事務局内で今回のプログラムの企画・作成の中心と成られた50回生山口さん、51回生大津さんからこのセッションの意図について説明がありました。両先輩からは、社会人から学生がどのように見えているのか、学生は其中でどのように自分を理解してもらえばよいかという指摘、そして今回のセッションを楽しみながら、3回のプレゼンと議論、そして手元に残ったフィードバックを通じて「自分」について改めて考えてほしいというメッセージが送られました。

セッションの中では先輩の質問をうけ答えに窮するような場面や、逆に先輩に質問する場面など、グループごとに多様で活発な、そして附設生独特の、メリハリのきいた議論が繰り返されました。附設出身以外の学生の皆さんも積極的に参加されており、大変な盛り上がりを見せていました。

第一部が盛況におわり、そのまま第二部の懇親会へと向かいました。第二部では、業界にそってテーブルにわかれて頂き、長縄東京支部長の音頭でスタートとなりました。長縄支部長からは、「大変な世の中ではあるが、野心を持って社会に貢献してほしい。学生の皆さんの中から多くの社長が出てくることを願っている。」との挨拶を頂きました。フランクな雰囲気ながらも、各テーブルで業界についてのアドバイスや質問などが飛び交い、学生同士の情報交換や最後まで活気に満ちた集いとなったかと思えます。長谷川会長による三本締めと万歳三唱を新橋の夜に轟かせ、本セミナーは無事終了いたしました。

さて、当日のセミナー終了時に学生の皆様にアンケートをお願いしています。

今回の試みに対して、皆さんからは非常に高い評価を頂く一方で、特にセッションを中心に時間が駆け足で、もっと先輩の話が聞きたかった、話がしたかったと言うご指摘を多く頂いております。次回、来年以降の改善点にしていければと思います。我々事務方の不手際もあり、社会人・学生の皆様にはご迷惑をおかけした部分もあるかと思えます。この場を借りてお詫び申し上げます。

最後に、末席ではありますが事務局の中で感じたことについて簡単にのべさせていただき本レポートの結語にさせていただきたいと思えます。

セミナー当日、セッションに参加される社会人の皆さまと事前摺合せの昼食会をおこないまし

た。そこであがった、「SNSをはじめ広範なコミュニケーションが可能になる一方で、学生はそのツールに振り回されるばかり。基本的な、あるいは当然のコミュニケーションのやり方を見失っているのではないか」というお言葉に自身も恥じ入るばかりでした。そして、対面で大勢の大先輩を前に自身の言いたいことを過不足なく伝える為の機会というものが如何に貴重かということに改めて思い知った次第です。

今回のセミナー開催に際して、学生側からの参加の連絡にも様々な問題がありました。その中で、このセミナーを毎年企画し、精力的に参加していただいている諸先輩方には、感謝の言葉もありません。しかし、このセミナーが学生たちにとって自身のポテンシャルをより活かせるようになる絶好の機会であると、セッションに参加させていただきながら痛感いたしました。

何かと問題児だらけの附設生ではありますが、是非今後とも彼ら、彼女らが「附設の力」を社会に向かって存分に活かせるように、そして附設OBのご子息・ご息女もご参加いただく刺激的なセミナー作りにご助力・ご指導を賜りますよう、未だ学生の身分である私といたしましてもお願いするばかりです。今回、内定者・学生として集まってもらった皆にも、この附設ネットワークの一員に是非加わって欲しいと願っています。

文責 江口良輔（55回生 東京大学文学部4年生）

第一部会出席34名 (途中退場1名 途中入場3名) アンケート回収率20/33

質問内容	選択肢	回答数	理由など
【1】スピーチ「社会人からのメッセージ」を開き、内定者としてどう思われましたか？	1. とても参考になる	14	話して頂いた方の仕事に向き合う姿が印象的
	2. 参考になる	1	
	3. あまり参考にならないと思う	0	
	4. 参考にならない	0	
	5. 別のやり方を模索すべき	1	
	未回答	4	(途中入場の為、参加せず)
【2】就活生による「自己紹介」はいかがでしたか？	1. とても意味がある	6	自分を表現する良い機会だった
	2. 意味がある	10	1分にまとめる作業が有意義だった
	3. あまり意味がない	1	先輩からのFBがなく、言いたいが言えない部分に気づけた
	4. 意味がない	0	
	5. 実施した意味がよくわからない	0	
	未回答	3	(途中入場の為、参加せず)
【3】セッションで用いた「Session Note」はいかがでしたか？	1. とても良かった	8	自分のプレゼンを客観的にコメントしてもらえ面白かった
	2. 良かった	9	
	3. あまり良くなかった	0	
	4. 良くなかった	0	
	5. 別のやり方を模索すべき	0	
	未回答	3	(途中入場の為、参加せず)
【4】セッションの手法や、ひとつのグループの人数についてはいかがでしたか？	1. 適切だった	15	他の学生の話も聞けた
	2. 適切でなかった	3	時間を短くした為社会人も学生も慌てていた
	未回答	2	時間が足りない(複数)
【5】セッションのラップアップ(まとめ)はいかがでしたか？	1. とても参考になる	10	事務局の方を見ていて、自分も情熱を注げる仕事に出会いたいと思った
	2. 参考になる	5	社会人から個人々人へのフィードバックが欲しかった
	3. あまり参考にならないと思う	0	
	4. 参考にならない	0	
	5. 別のやり方を模索すべき	0	
	未回答	5	
【6】開催日程日はいかがでしたか？(2)を選んだ方は理由と、好ましい時期を教えてください	1. 適切だった	15	もう少し早いか遅いか
	2. 適切でなかった	4	12月中旬 もっと早い段階で先輩からのアドバイスを頂きたかった
	未回答	0	早い機会にこのセミナーをやってほしい
【7】全体プログラムの長さ、時間配分について伺います。(複数回答可)	1. 全て適切だった	3	
	2. 全体プログラムが長かった	1	
	3. 全体プログラムが短かった	6	
	4. 社会人からのスピーチを長くして	3	
	5. 社会人からのスピーチを短くして	0	
	6. 自己紹介を長くしてほしい	1	
	7. 自己紹介を短くしてほしい	3	
	8. セッションを長くしてほしい	12	
	9. セッションを短くしてほしい	0	
【8】今回のセミナーを、みなさんの基準で遠慮無く5段階評価してください。	1. とても良かった	13	
	2. 良かった	6	
	3. あまり良くなかった	0	
	4. 良くなかった	0	
	5. 別のやり方を模索すべき	0	
	未回答	1	
【9】セミナーの感想(自由記述)	・自分を知る機会としてとてもよかった ・附設のポテンシャルを感じた ・他人が自分をどう見てるかを知ることが出来たことに意味があった ・人とのつながりで学ぶことの多さに気付かされた ・勉強になり楽しかった ・具体的なアドバイスをもらい参考になった ・有意義な時間を過ごせた ・思っていることを言葉にすることの大変さを実感できた ・お見合い形式でF2Fで話を出来たのは就活戦略の見直しに非常に参考となった ・セッションは2回でもよかったのでは ・セッションでは、組む相手を変えて、複数の方からのフィードバックをもらう方がよい ・卒業生だけでなく、その子供にまで門戸を開いてくれ感謝 ・このセミナーは就活間際ではなく、もっと早い時期にやっていただけると効果的 ・アットホームな雰囲気の中でのセミナーだったのでありのままの自分そのまま緊張もせず楽しむことが出来た ・社会人の方が親身に話を聞いてくださったので素直に嬉しかった ・セミナー全体がとても良くオーガナイズされていた ・貴重な機会を有り難うございました ・正直、人事の方の前では本音を話さずらかった ・事務局の方々の準備、こまめな連絡に有難うございました		